坪井夏美さん応援レポート
フレッシュ名曲コンサート
藤岡幸夫×東京都交響楽団

2016年10月10日（月・祝）
江戸川区総合文化センター　大ホール

チャイコフスキーのコンツェルト

フレッシュ名曲コンサート。著名指揮者、一流オーケストラとのコンツェルト（協奏曲）の演奏など、若手演奏家にとって貴重な演奏機会となっているシリーズである。今年度坪井さんは7月に続いて2度目の登場。本日は藤岡幸夫氏の指揮、東京都交響楽団との共演。坪井さんはソリストとして、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲（チャイコン）を演奏する。7月はメンデルスゾーンのコンツェルト、本日はチャイコフスキーのコンツェルトと、ヴァイオリン協奏曲の名曲中の名曲の演奏が続く。

管弦楽の東京都交響楽団は、「都響」の通称で親しまれる交響楽団。 1965年、東京オリンピックの記念文化事業として東京都が設立。「首都東京の音楽大使」として国内各地での公演はもちろん、海外公演の他、アジアの楽団との楽員交流事業などに積極的に取り組み高く評価されている。

会場は江戸川区総合文化センター大ホール。1983年に開設されたセンターは、音楽、演劇、舞踊、コンクール、講演会等に利用される大・小ホールに加え、リハーサル室・研修室・会議室・和室・展示室・展示ギャラリー等、様々な施設を擁している。隣接するのは、新東京百景にも選ばれた小松川境川親水公園の「水の庭園ゾーン」。水と緑に囲まれた自然豊かな施設である。

フレッシュ名曲コンサートは、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京文化会館）が、都内の区市町村及び区市町村の指定する団体との共催により実施するコンサート。地域で身近にクラシック音楽等の名曲に親しむ機会を提供し、併せて東京音楽コンクール入賞者をはじめとする新進演奏家の発掘・育成を図ることを目的として開催されている。
なお江副記念財団は2016年度の助成事業として「東京音楽コンクール」を支援している。

激しさや繊細さを優美に華やかに

秋晴れの天候のもと、会場には多くのお客様が詰めかけてくれている。
「・・・フレッシュ名曲コンサートは名曲づくし。今日のチャイコンも、これまでに何度も、多くの演奏家により弾かれてきた名曲です」。
「・・・加えて、チャイコンは中学生の頃に初めてオーケストラと共演した思い出深い曲。今回再びオーケストラと共演できる喜びを感じています」と坪井さん。多くの人々に愛されるおなじみの曲を、今回どのように表現してくれるか楽しみだ。

拍手に迎えられ、坪井さん登場。きりっとした紫紺のドレスが舞台によく映える。
演奏が始まる。
豊かにのびやかに、ヴァイオリンの音が広いホールに響き渡る。新しいヴァイオリンとも早や半年、しっくりと馴染んできているのが感じられる。

ロシアの民俗色が濃く表現されているといわれる曲、ヴァイオリニストに求められる技巧も数多く散りばめられている。

「・・・曲に出会った最初の頃は、ロシアの雄大な自然や、そこからのエネルギーを感じながら弾いていましたが、今回ふたたび向き合ってみて、その感覚がなんだかしっくりこなくなって・・・」
「・・・曲が作られたころの建物などの写真を見ていたら、あ！と思うところがあって。大国ロシア、そうであるからこそ整えられた曲なんだ。・・・そういうイメージに転換したら、なんだかとてもすっきりして、共感をもって弾くことができるようになりました」
「・・・この曲は抒情的な面も多いのですが、情感を込めすぎるのは違うかなと。たっぷりと歌うところは歌いながら、力強く、前に進む感じで、そういう作り方をしようかなと思っています」。
激しさや繊細さを多彩に表現し、オーケストラとともに華々しく盛り上がって終曲。優美に華やかに弾きあげた坪井さんに会場の皆さまから大きな拍手。

演奏中写真のご提供：江戸川区総合文化センター

楽器と仲良くなり、ほしい音色を自在にあやつっていきたい

終演後の坪井さんに話を聞いた。

ー堂々の演奏でした；

「・・・冷静な自分もどこかに残っていながら、いろいろな感情や情景が浮かんできて、とても楽しかったです」

ー新しいヴァイオリン、いい感じですね；

「・・・お借りして間もない頃は、音色を頑張って作る感覚が少しあったのですが、最近は無意識に、ヴァイオリン自体が欲しい音を出してくれるようになってきました。つまり馴染んできたということなのかなぁと感じています」

「・・・でももっと。もっと柔らかく弾き込みたいと思っています。今日は少し力んでしまったところもありました。良い楽器というのは反応も良くて、良い弾き方をすれば、とても良い音が出ます。反対にこちらが力むと、そういう反応の音が出ます。『あ、今の弾き方はダメなんだ』と楽器から教わることもあります」

「・・・曲とも楽器とも仲良くなれたなと感じたのが、本番の数日前で。指揮の藤岡先生、都響のみなさんの音色にすごく刺激を受けました」

ー室内楽のリサイタルや、オーケストラとの協奏曲、オーケストラの一員としての出演など、盛りだくさんですね；

「・・・演奏会でしか学べないことも多く、楽しみでもあり、大変にありがたいです。お客様に楽しんでいただくのはもちろんですが、自分にとっても、いい経験にしていきたいです」「・・・オーケストラの中で演奏させていただくのも、とても勉強になります。コンチェルトのオケパートを演奏させていただく機会もあり、ソリストに寄り添うオケ側の感覚が少しわかってきたような気がします」

終演後、楽屋でマエストロと

楽屋では、マエストロの藤岡氏から「素晴らしかったよ、また一緒にやろう！」とのお声がけも。
マエストロのSNSには「・・・若々しく爽やかで、とっても素敵なチャイコフスキーでした」とのお言葉もあった。

年末に向けて、新しい曲の披露も多い。「・・・集中して準備をしていきたいと思います。楽器と、もっと仲良くなって、好きに操れるようにしていきたいです。自分のほしい音色、こう歌いたいという音を自然に出せるようになったら、どんな曲がきても」と頼もしい心意気を述べてくれた。

坪井さん、素敵な演奏でした。
また聴かせてください！

＜演奏会概要＞
◆出演
指揮　藤岡幸夫
ヴァイオリン　坪井夏美(*)
管弦楽　東京都交響楽団
◆プログラム
チャイコフスキー　ヴァイオリン協奏曲　ニ長調　Op.35 (*)
ベートーヴェン　交響曲第6番　ヘ長調　Op.68「田園」
◆アンコール
エルガー：夕べの歌 Op.15、No.1

【コンサート・フライヤー(表)】

【コンサート・フライヤー(裏)】

フレッシュ名曲コンサート

藤岡幸夫×東京都交響楽団

©SHIN YAMAGISHI

指揮 藤岡幸夫 Sachio Fujioka

慶応義塾大学、英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒業。「サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞」を特例で受賞。1994年「プロムス」にBBCフィルを指揮してデビュー。以降数多くの海外オーケストラに客演。2006年スペイン国立オヴィエド歌劇場プリテン「ねじの回転」でスペインにオペラ・デビュー。その年の同劇場新演出作品のベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤーに輝き、2009年にR.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」で再び大成功を収めた。マンチェスター室内管弦楽団、日本フィルを経て、現在関西フィル首席指揮者。毎年40公演以上を共演し2016年で17シーズン目を迎える関西フィルとの一体感溢れる演奏は、常に聴衆を魅了し高い評価を得ている。テレビ、ラジオへの出演にも広く活躍。BSジャパン「エンター・ザ・ミュージック」(毎週月曜23:00～)の指揮・司会として関西フィルと共に出演中。

公式ファンサイト http://www.fujioka-sachio.com/

ヴァイオリン 坪井夏美 Natsumi Tsubai

1993年米国ニューヨーク州生まれ。東京藝術大学附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て、同大学修士課程1年に在籍。2015年マイケル・ヒル国際ヴァイオリンコンクール第4位(日本人初の入賞)をはじめ、第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞、第81回日本音楽コンクール第3位、IMA奨励賞を受賞。ミュージックアカデミーin みやざき2012・2013・2014にて優秀賞を受賞し、宮崎国際音楽祭「新星たちのコンサート」に出演、2014年からはオーケストラメンバーとして参加。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀2015に参加。これまでに読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団等と共演。江副記念財団第44回奨学生、ロームミュージックファンデーション2015年度奨学生、東京藝術大学学内にて安宅賞を受賞。これまでにヴァイオリンを故Lydia Mordkovitch、Mateja Marinkovic、清水涼子、神谷美千子、Pierre Amoyal、漆原朝子、原田幸一郎の各氏、室内楽を川崎和憲、大関博明、川本嘉子、市坪俊彦、松原勝也の各氏に師事。

©堀田力丸

管弦楽 東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立(略称:都響)。現在、大野和士が音楽監督、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者、ヤクブ・フルシャが首席客演指揮者を務める。定期演奏会などを中心に、小中学生への音楽鑑賞教室(約60回／年)、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での訪問演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での出張演奏など、多彩な活動を展開。《首都東京の音楽大使》として、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。2015年11月にはベルリン・ウィーンなど5ヶ国6都市をめぐるヨーロッパツアー(指揮:音楽監督・大野和士)を行い、各地で熱烈な喝采を浴びた。受賞歴に、「京都音楽賞大賞」(第6回)、インバル指揮「ショスタコーヴィチ:交響曲第4番」でレコード・アカデミー賞〈交響曲部門〉(第50回)、「インバル＝都響新・マーラー・ツィクルス」での〈特別部門:特別賞〉(第53回)など。

公式ウェブサイト http://www.tmso.or.jp/

講座開催

フレッシュ名曲コンサート

クラシック音楽セミナー

第1回 2016年 9月11日(日) ベートーヴェン 交響曲第6番「田園」

第2回 2016年 9月24日(土) チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲 ミニコンサートつき

15:00～16:30(受付14:30～)

江戸川区総合文化センター 研修室(3F)

講師 加藤昌則(作曲家・ピアニスト)

第2回ゲスト 坪井夏美(2014年 第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞)

一般 第1回 1,000円 第2回 1,500円 学生 2回とも500円 全席自由・税込

江戸川区総合文化センター

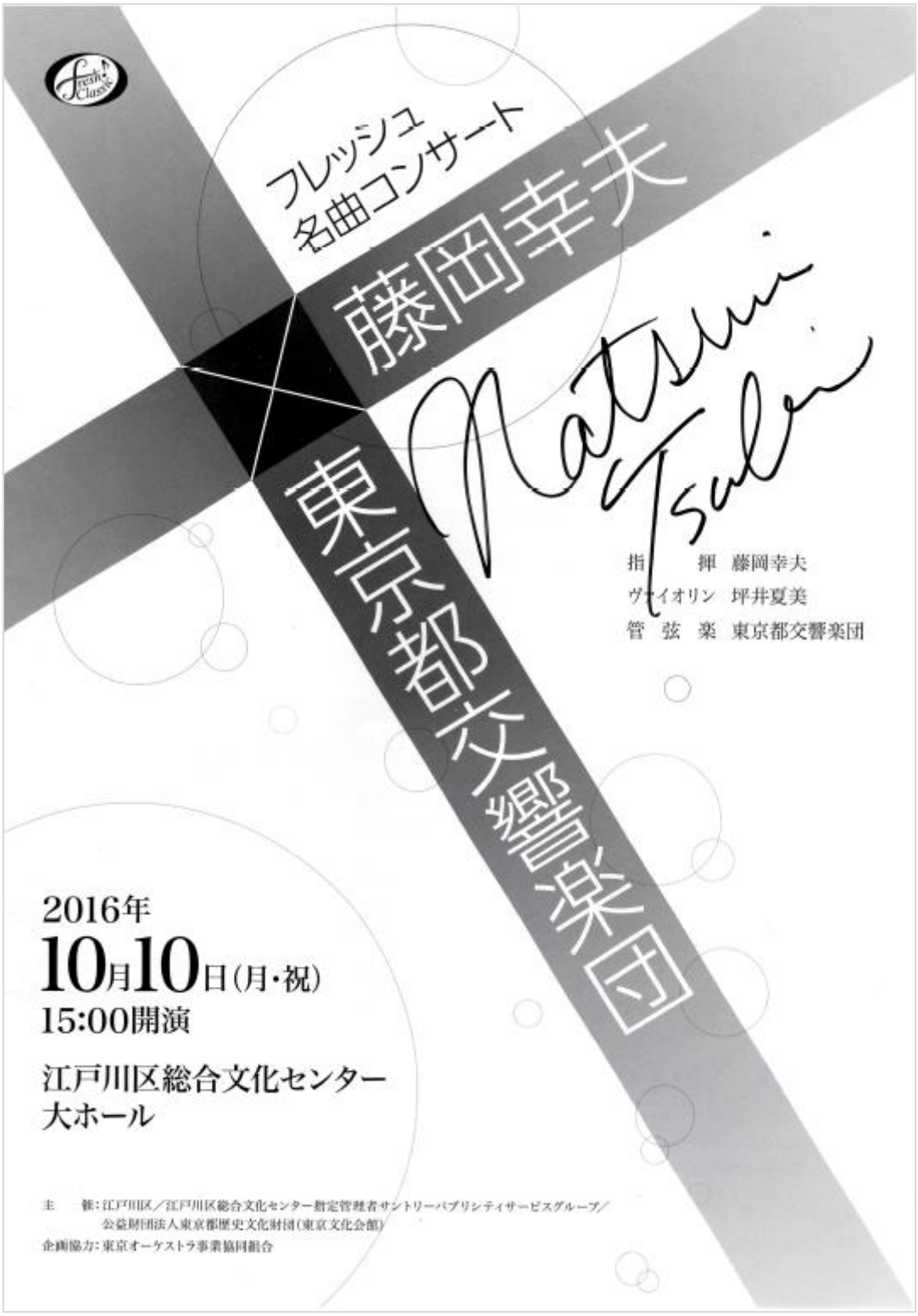
〒132-0021 東京都江戸川区中央 4-14-1
TEL 03-3652-1106 (9:00～21:30)
http://edogawa-bunkacenter.jp

[電 車] JR総武線 新小岩駅 南口より徒歩約15分

[バ ス] 新小岩駅南口前①②番乗り場
〈新小22〉葛西駅前行き、〈新小21〉西葛西駅前行き
「江戸川高校前」下車 徒歩約3分

[駐車場] 普通車244台(1時間200円、以降1時間ごと100円)

【コンサート・プログラム（表紙）】



【コンサート・プログラム　:プログラム】

プログラム　Program

チャイコフスキー (1840-1893)　*Pyotr Ilyich Tchaikovsky*

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35 (ヴァイオリン:坪井夏美)
Violin Concerto in D major, Op.35

第1楽章 アレグロ・モデラート ― モデラート・アッサイ　ニ長調
第2楽章 カンツォネッタ／アンダンテ　ト短調
第3楽章 アレグロ・ヴィヴァチッシモ　ニ長調

休憩　20分

ベートーヴェン (1770-1827)　*Ludwig van Beethoven*

交響曲第6番 へ長調 Op.68「田園」
Symphony No.6 in F major, Op.68 [Pastorale]

第1楽章「田舎に着いた時の愉快な気分のめざめ」アレグロ・マ・ノン・トロッポ　へ長調
第2楽章「小川のほとりの情景」アンダンテ・モルト・モッソ　変ロ長調
第3楽章「田舎の人々の楽しい集い」アレグロ　へ長調
第4楽章「雷雨、嵐」アレグロ　へ短調
第5楽章「牧人の歌。嵐の後の喜ばしい感謝の気持ち」アレグレット　へ長調

指揮:藤岡幸夫
Conductor : Sachio Fujioka

ヴァイオリン:坪井夏美
Violin : Natsumi Tsuboi

管弦楽:東京都交響楽団
Orchestra : Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

コンサートマスター:山本友重
Concertmaster : Tomoshige Yamamoto

【コンサート・プログラム　:曲目解説】

曲目解説　Program Note

加藤昌則（作曲家・ピアニスト）

チャイコフスキー　ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35　約35分

初演時の評判は芳しくなかったというこの協奏曲は、今やオーケストラ公演の人気作品。ヴァイオリン協奏曲の「顔」のような作品です。

どうしてこの作品が初演時に受け入れられなかったのでしょうか！？

第1楽章は、オーケストラによる穏やかな音楽から始動します。これもそれまでの協奏曲に比べると少々珍しいパターンです。派手な開始とか、特徴あるメロディーや音楽などで一気に聴衆の心をつかむ手法をとっていましたから、この開始は少々肩すかし感があります。しかし間もなく拍動と共に盛り上がり、「来るぞ！来るぞ！」という聴衆の期待を音楽で同時に高めてくれる効果をもたらしています。今や、これがたまらない興奮を我々に与えてくれているのです。

メインのメロディーとサブのメロディーという、二つある大事な主題は、チャイコフスキーらしい美しいメロディーです。これも少々穏やかすぎる傾向だったのですが、この楽章では中間に高らかに演奏されるオーケストラの大サウンドを味わって下さい。コンチェルトの醍醐味、ソロとオケとの激しいやりとりは、短く悲しげで素朴な音楽が心を打つ第2楽章の後、連続して演奏される第3楽章で味わえますよ。まさにエネルギッシュで、劇的なオーケストラとの対話です。チャイコフスキーは、協奏曲全体でコンチェルトの様々な味わい方を演出しました。今となっては耳慣れたこの大規模な構成が、当時の人々には少々斬新すぎたのでしょうね。

ベートーヴェン　交響曲第6番 ヘ長調 Op.68「田園」　約44分

ベートーヴェンはこの交響曲で「音楽による風景描写」という革新的なアイデアを提供しました。この成功は、リストやベルリオーズといった後世の作曲家に新たな活躍の場と名作を生み出させる貢献もしました。

各楽章に短い描写文が掲載されているのでそれぞれがどんな音楽による描写なのか理解を助けてくれますが、幾つか具体的な描写をご紹介しましょう。

第2楽章で出だしから聴こえる弦楽器の穏やかな揺らぎの伴奏は、小川のせせらぎの描写です。これも非常にわかりやすいですが、この楽章の終わりでは、夜鶯（ナイチンゲール）、うずら、カッコウの3種の鳥の鳴き声が形態模写されますよ。これも聴きどころ。

第3楽章は、高速の音楽が展開される「スケルツォ」という楽曲です。これもベートーヴェンの発明。彼以前にはなかった音楽なんです。そして「雷雨、嵐」と題された第4楽章。この楽章からピッコロ、ティンパニ、トロンボーンという楽器が初めて登場します。いずれも大音量で、特徴的。嵐の描写に効果的なサウンドで聴衆を圧倒するのです。特にティンパニはわかりやすいでしょう。最終楽章は、雨に濡れた大地が露の輝きとともに人々に安堵と幸福感を与える、あの「光景」ですが、まさにそれにふさわしい風景と心情描写を実現した優れた音楽です。正直、子供の頃はあまりよくわかりませんでした。人生の経験と共に味わい深くなる音楽。そういう側面も彼の音楽にあるから、いつになっても我々の心を魅了するのでしょうね。

【コンサート・プログラム：プロフィール】

プロフィール　Profile

藤岡幸夫　Sachio Fujioka

©Mogo

慶応義塾大学、英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒業。『サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞』を特例で受賞。1994年『プロムス』にBBCフィルを指揮してデビュー。以降数多くの海外オーケストラに客演。2006年スペイン国立オヴィエド歌劇場プリテン『ねじの回転』でスペインにオペラ・デビュー。その年の同劇場新演出作品のベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤーに輝き、2009年にR.シュトラウス『ナクソス島のアリアドネ』で再び大成功を収めた。マンチェスター室内管弦楽団、日本フィルを経て、現在関西フィル首席指揮者。毎年40公演以上を共演し、2016年で17シーズン目を迎えた関西フィルとの一体感溢れる演奏は、常に聴衆を魅了し高い評価を得ている。テレビ、ラジオへの出演でも広く活躍。BSジャパン『エンター・ザ・ミュージック』(毎週月曜23:00～)の指揮・司会として関西フィルと共に出演中。
公式ファンサイト http://www.fujioka-sachio.com/

坪井夏美　Natsumi Tsuboi

1993年米国NY州生まれ。東京藝術大学附属音楽高等学校、同大学を経て、現在は同大学大学院音楽研究科修士1年在学中。第12回東京音楽コンクール弦楽部門第１位及び聴衆賞をはじめ、2015年マイケル・ヒル国際ヴァイオリンコンクール第4位、第81回日本音楽コンクール第3位、IMA奨励賞を受賞。ミュージックアカデミー in みやざき 2012～2014 にて優秀賞を受賞。宮崎国際音楽祭にオーケストラメンバーとして参加。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀2015-2016、2016リゾナーレ室内楽講習会に参加。これまでに読響、新日本フィル、日本フィル、東フィル、日本センチュリー、藝大フィル、ニューフィル千葉等と共演。江副記念財団第44回奨学生、ロームミュージックファンデーション2015・2016年度奨学生。東京藝術大学学内にて安宅賞・アカンサス音楽賞を受賞、皇居内桃華楽堂にて御前演奏会に出演。これまでに、橋本璋子、故 Lydia Mordkovitch, Mateja Mordkovic、清水淳子、神谷美千子、Pierre Amoyal、藤原朝子、原田幸一郎の各氏に師事。室内楽を松原勝也、市坪俊彦、川本嘉子、大関博明の各氏に師事。また各種講習会にて徳永二男、川崎雅夫、Regis Pasquier, Krzysztof Wegrzyn, Oleh Krysa, Pavel Vernikovの各氏に指導を受ける。使用楽器は宗次コレクションにより貸与された J.Rocca 1864。

東京都交響楽団　Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

©細田力丸

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立(略称:都響)。現在、大野和士が音楽監督、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者、ヤクブ・フルシャが首席客演指揮者を務める。定期演奏会などを中心に、小中学生への音楽鑑賞教室(約60回／年)、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での訪問演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での出張演奏など、多彩な活動を展開。《首都東京の音楽大使》として、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。2015年11月にはベルリン・ウィーンなど5ヶ国6都市をめぐるヨーロッパツアー(指揮:音楽監督・大野和士)を行い、各地で熱烈な喝采を浴びた。受賞歴に、「京都音楽賞大賞」(第6回)、インバル指揮『ショスタコーヴィチ:交響曲第4番』でレコード・アカデミー賞〈交響曲部門〉(第50回)、「インバルー都響新・マーラー・ツィクルス」での〈特別部門:特別賞〉(第53回)など。
公式ウェブサイト　http://www.tmso.or.jp/

公益財団法人東京都歴史文化財団(東京文化会館)では、都内の区市町村及び区市町村の指定する団体との共催により、「フレッシュ名曲コンサート」を実施しています。
この事業は、都民の皆様に身近な地域で気軽にクラシック音楽等の名曲に親しんでいただく機会を提供し、併せて新進演奏家の発掘、育成を図ることを目的として開催するものです。皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

公益財団法人東京都歴史文化財団(東京文化会館)